

「文化財保護の歴史と政策」研究会開催案内

日本文化政策学会では、標記の研究会を下記により開催いたします。会員の方はもちろんのこと、会員以外の方でご関心ある方は奮って参加ください。

記

1.日時 2017年8月5日(土) 午後2時～4時30分

2.テーマ・発表者

- ・【趣旨説明】文化財政策に関わる研究の現状(仮題) 馬場憲一(法政大学教授)
- ・【研究発表】遺跡保護行政の担い手に関わる歴史的研究 須田英一(法政大学講師)

〔発表内容〕本発表は、明治期から昭和戦後期に至る日本の文化財政策の歴史的展開を対象として、政府の文化財政策と、神奈川県における文化財政策の展開を歴史的に跡づけると共に、それらの政策のもとで大正期から昭和戦前期、昭和戦後期における国や地域の遺跡保護行政に息を吹き込み、制度を支える担い手となった人物の動向を明らかにする。また、その担い手の考古学的な研究活動が、地域の遺跡保護行政に影響を与えたことにも論及したい。

3.会場

法政大学大学院 2階 202教室 (所在地住所 東京都新宿区市谷田町2-15-2)

<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/campus/ichigaya/ichigaya.html>

4.参加費

会員および学生は無料。非会員は500円。

5.参加申込み

準備の都合もありますので、恐れ入りますが、参加される場合は7月31日(月)までに以下のメールアドレス宛てに氏名・所属・会員の有無をお知らせください。

kenbaba@hosei.ac.jp 馬場憲一あて

6.研究会開催の趣旨

文化財政策は、近代以降の歴史的経緯の中で国—地方自治体というヒエラルキーのもとで確固たる制度に支えられて展開されてきている。だが、近年、文化財(文化遺産)は「まちづくり」の有効な資源としてもその活用が期待されている。このような状況下にある文化財に対し、歴史的な視点と現代的な課題を踏まえ、文化財の本質と今日的な政策や制度のあり方を探っていくことを目的とする。なお、本研究会では、今年度、継続的な研究発表会を約2ヶ月に1度のペースで開催していくことを予定している。

研究会担当者 馬場憲一 須田英一